

平成24年1月31日

日清製粉グループ 第3四半期連結累計期間決算、通期連結業績予想

当第3四半期は売上高3,296億27百万円、経常利益207億57百万円。

[平成24年3月期第3四半期連結累計期間決算]

㈱日清製粉グループ本社（社長 大枝 宏之）の平成24年3月期第3四半期連結累計期間につきましては、東日本大震災後の復旧・復興需要により日本経済には回復の兆しがみられたものの、デフレ環境の継続に加え、欧州債務危機等を背景とした国内景気の減速懸念により、個人消費が低迷するなど厳しい市場環境が継続いたしました。当社は主要食糧である小麦粉及び各種製品の安定供給に最大限の努力を払うとともに、お客様との更なる関係強化を図り販売促進に努めました。また、各事業において、引き続き生産・物流などあらゆる方面でコスト削減に取り組みました。そのような中、輸入小麦の政府売渡価格が昨年4月に5銘柄平均で18%、10月に同2%引き上げられたことを受け、製品価格改定を実施いたしました。

この結果、第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は製粉事業の出荷伸長や輸入小麦の政府売渡価格引き上げに伴う製品価格改定等の影響もあり、3,296億27百万円（前年同期比103.1%）と増収となりました。利益面では、コスト削減効果はあったものの、製粉事業におけるふすま価格の低迷及び払販施策費用の投入等により、営業利益は180億88百万円（前年同期比88.0%）、経常利益は207億57百万円（前年同期比91.2%）、四半期純利益は109億5百万円（前年同期比86.1%）となりました。

[平成24年3月期通期連結業績予想]

わが国の経済は、電力不足問題の長期化懸念や欧米経済の減速及び歴史的な円高水準の継続など多くの課題に直面しております。また、政府による増税の検討や景気の先行き不透明感から低価格・節約志向が継続し、個人消費の低迷が予想されるなど、当社グループを取り巻く状況は引き続き厳しいものと見込まれます。このような環境下におきましても、当社は国民の主要食糧である小麦粉等の安定供給を確保し、各事業において安全な製品を供給するという使命を果たすとともに、出荷拡大に努め、全ての領域において更なるコスト競争力の強化に取り組んでまいります。また、併せて当社グループの成長を実現するため、海外事業展開のスピードアップを図ってまいります。

上記の状況及び第3四半期連結累計期間の業績を踏まえ、当年度の連結業績見通しにつきましては、10月公表の通り、売上高は4,460億円（前期比105.1%）、営業利益は236億円（前期比93.2%）、経常利益は260億円（前期比93.4%）、当期純利益は140億円（前期比98.7%）としております。

当社グループは、このような厳しい環境を乗り越え、長期的な発展を実現するため、中期経営計画「NNI-120、スピードと成長、拡大」に平成24年度から取り組みます。

以上